

Cyperaceae カヤツリグサ科

Carex aphanolepis Fr. et Sav. エナシヒゴクサ

C. blepharicarpa Franch.

 var. *stenocarpa* Ohwi ツクバスケ

C. breviculmis R. Br. アオスゲ

C. conica Boott ヒメカンスゲ

C. curvicolis Fr. et Sav. ナルコスゲ

C. dolychostachya Hayata

 var. *glaberrima* T. Koyama ミヤマカンスゲ

C. grallatoria Maxim.

 var. *heteroclita* Kuhenth. サナギスゲ

C. hashimotori Ohwi サヤマスケ

C. ischnostachya Steud. ジュズスケ

C. japonica Thunb. ヒゴクサ

C. kiotensis Fr. et Sav. テキリスゲ

C. miyabei Franch. ビロードスケ

C. mollicula Boott ヒメシラスゲ

C. morrowii Boott カンスゲ

C. olivacea Boott var. *angustior* Kuenth.

 ミヤマシラスゲ

C. otaruensis Franch. オタルスケ

C. reinii Fr. et Sav. コカンスゲ

C. rhizopoda Maxim. シラコスゲ

C. satsumensis Fr. et Sav. アブラシバ

C. siderosticta Hance タガネソウ

C. brevifolius Hassk.

 var. *leirolepis* T. Koyama ヒメクグ

Orchidaceae ラン科

Bulbophyllum drymoglossum Maxim.

 マメズタラン

B. inconspicuum Maxim. ムギラン

Calanthe discolor Lindl. エビネ

Cymbidium goeringii Reichb. fil. シュンラン

Dactylostalix ringens Reichb. fil. イチヨウラン

Galeola septentrionalis Reichb. fil. ツチアケビ

Gastrodia elata Bl. オニノヤガラ

Goodyera macrantha Maxim. ベニシュスラン

G. schlechtendaliana Reichb. fil. ミヤマウズラ

Liparis kumokiri F. Maek. クモキリソウ

Listera japonica Bl. ヒメフタバラン

Myrmecis japonica Rolfe アリドウシラン

Oberonia japonica Makino ヨウラクラン

Oreorchis patens Lindl. コケイラン

Platanthera florentii Fr. et Sav. ジンバイソウ

P. mandarinorum Reichb. fil. ヤマサギソウ

P. minor Reichb. fil. オオバノトンボソウ

P. tipuloides Lindl. ホソバノキンソドリ

Saccolabium matsuran Makino ベニカヤラン

Sarcochilus japonicus Miq. カヤラン

Tipularia japonica Matsum. ヒトツボクロ

以上 585種 16変種 14品種 計615

後 記

この目録は奥山春季氏「日本植物ハンドブック」の分類植物名鑑に準拠して作った。

この目録は賤母国有林の学術参考保護林を中心に1949年以降折々に調査したものの集積であるが1975年以降は当時南木曾中学校在勤中の楯誠治氏の参加協力を得た。この間、倉田悟博士と故水島正美博士には標本の同定を仰ぎ、現地調査に当っては妻籠営林署の理解と協力を得た。ここに以上の各位に対し謹んで感謝の意を表する。

【植物ニュース】 22. カミコウチアザミ (新称)

Cirsium microspicatum × *C. norikurense*

上高地にはアズマヤマアザミとノリクラアザミが極めて多く、それぞれ別々に群生しているが、所々にその混生地もあり、そこで見られるのが、ここに報告しようとするアザミである。

それは葉の欠刻、下面の色、分枝の状態、頭花の大きさと着き方、総苞片の形など何れも上記2種の中間である。したがって、これは、これらの間種と認めざるを得ないが、この間種は未だ文献に見られないのでカミコウチアザミと命名したい。

なお先年御岳高原で採集し、北村四郎博士によって「植物分類地理」に発表されたノアザミとノリク

ラアザミとの間種は和名をウラジロノアザミと呼ぶこととしたい。

以上の報告に当たり御指導、御助言をいただいた北村四郎博士、清水建美博士、杉本順一先生に感謝の意を表する。 (奥原弘人)

23. トゲヂャ Lactuca scariola L.

既報(本誌第9号)のような疎訪、東北信地方には葉の切れこみのないものと深裂(中脈の近く2~3mmまで)するものの2型が入っていたが、松本・安曇平には、深裂の形は皆無であった。それがはじめて松本市街地で発見された(1977年8月16日)。ちなみに、トゲヂャはここ2~3年急に減って探すに骨折れるほどになった。 (浅川富雄)